



TITLE:

天體方位測定機について

AUTHOR(S):

津田, 雅之

CITATION:

津田, 雅之. 天體方位測定機について. 天界 1926, 6(62): 145-146

ISSUE DATE:

1926-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160506>

RIGHT:

の友人や氏の崇拜者達から、一日千秋の思ひで待たれて居るものらしく、尙夫人に委ねたものの中から目星しいものをあげます、

Philosophie astronomique; le Monde invisible;

les Métamorphoses du globe: l'Autre Monde

なごがあります。併し何さいつでも彼が全生命をブチこんで居たものは

Astronomie populaire

であつて、此の書物に更らに、天界永讃記念碑さもいふべき立派な美しい澤山の寫眞を挿入して新刊さして、世に出さうさいふのです。此の著書によつて、彼が天文學的天稟の豊かさを知り得て充分ださ、いはれて居ります。

最後に、私さもが襟を正して傾聴すべきさごがあります。フランマリオン氏は死ぬ朝までも、一九二六年の天體觀測の『手びき』にもさ天文年鑑第六十二號を校正して居つたさいふ事です。氏の天文學熱愛の程も偲ばれて奥床しい限りではありませんか。氏にも優れて、女性の身であり乍ら、天文學熱愛の夫人の爲めに限りなき幸福を祈つて筆をおきます。(L'Illustration, 27 Juin 1925より)

——能田忠亮譯——

天體方位測定機について

會員 津 田 雅 之

天體の位置、運行並に天體相互の位置關係を知ることは吾々初歩の天文趣味を誘發し、進んでは測定的に研究を導き、不知不識の間に天文知識の根本を培ふものである。天體測定機としては種々専門的高尙なる物は已に多数に有るけれ共その價の廉ならず従つてその設備をなすことは一寸さ素人向には出來かねるものである。使用法の簡單にして費用も少く素人として誰れにても準備し得て而も學術的である機構を案出したいさ願望して今回圖示せる如き測定機を考案するに至つた。本機は小學生中學生より或る程度の専門家にも使用するに價するものであるさ信する。

本機を使用して測定し得る事項の概要を記するさ

1. 三等星までの天體を測定するさごが出來る
2. 天體の位置(方向さ高度)
3. 北極星さ天の北極さの偏差
4. 太陽の運動狀況
5. 月の運動狀況

6. 恒星の運動
 7. 天體間の角距離
 8. 太陽や月の直徑(角度)
- なほ本機を地理的に應用すれば
9. 地物の方向及高さ(角度)
 10. 彼我土地の高低比較

等

右の諸目的に使用すること得、且つ約十秒角單位までも比較的正確に測定することを得ることを實驗した。

本機の構造は上の目的のために方向角さ高度角さを測定すべき兩主要部さ之れを運用すべき諸設備から成る。即ち臺板(チ) (挿圖参照)は三脚(カ)を開閉することにより水平に置くことを得るものにして、その水平檢定は之れに垂直なる縦桿(ホ)の側面に附設したる垂下錘(チ)による。横桿(ニ)は照準用にして照準器(イロ)を有し、關節(タ)によりて緩着せしめ、水平方向よりの高度を測定するものとす。之れがため高度角を示す角度弧(ヘ)を具へ齒車(ト)により上下するものとす。照準器(ハ)は太陽測定の場合に限り扛起使用する

